

消費者志向自主宣言 2019 年度実績報告

2020 年 10 月 23 日

石坂産業株式会社
代表取締役 石坂典子

1 経営トップコミットメント

消費者志向自主宣言のコミットメントに基づき、2019 年度は 49 団体 5,491 名に対し、持続可能な社会形成に向けて、自然環境を大切に、地球環境負荷の低減に努めるエンカル活動についての情報発信や「人と自然と技術が共生」する企業づくりの取り組みの紹介により、レジリエント社会実現に向けた価値共創に努めました。

社員一人ひとりの個性を重んじ、「働き甲斐改革」によってライフワークバランスの確保と生き生きと働けるような職場づくり、社員の健康面に配慮した休憩棟の整備と健康弁当の提供に取り組みました。

2 コーポレートガバナンスの確保

地域から愛される「永続企業」を目指し、地域の歴史が残る美しい雑木林を活かし持続可能な社会を形成するライフスタイルの提案のため、積極的に人材育成・研究開発・設備更新投資を継続しています。

また、最新の ICT やローカル 5G などのネットワーク技術を導入し、省人化や安心・安全などを推進する「Society5.0」「スマートプラント」実現に向け、他社との共同事業も開始いたしました。

3 消費者対応部門と他部門との有機的な連動

全社一丸となり、三富今昔村スタッフと森の保全スタッフ、再資源化事業スタッフが連携し、石坂流の「室礼」「おもてなし」を通じたプログラムを提供しています。

4 社員の積極的活動

社員一人ひとりが、働きやすく笑顔で幸せを追求できる職場環境づくりに取り組んでいます。個性を生かした配置転換や、タスクフォースに参加させてキャリアストレッチの形成に努めています。

見学者通路へ Green Action Street と名付けた「知」の交流の場を設け、「自分の仕事に誇り」について 3M（見せる・魅せる・満せる）メッセージを書く、機会の場を設けています。

5 消費者に対する具体的な行動

一般来場及び団体見学で来場された約 4 万人の方に、「体験型」環境教育の場を提供いた

しました。うち約 7,100 名の方には、体験活動を通じたワークショップを開催し、持続可能な社会目標 SDGs 4「質の高い教育」、SDGs12「つくる責任つかう責任」に「すてる責任」を加えた気づきを促しました。

埼玉県・川越市・ふじみ野市・三芳町・所沢市の小中高校に対し、埼玉県の環境学習応援隊事業の一環として、ワークショップを通し 4R (Reduce Reuse Recycle Respect) を周知しました。

6 消費者への情報提供の充実・双方向の情報交換

ホームページや SNS を活用し、事業紹介や環境学習プログラム等の情報提供を行いました。夜祭や SATOYAMA アウトドアナイトなど、地域の方に対して交流する場を開催し、コミュニケーションを図りました。

「自然と美しく生きる」コーポレートスローガンに因んだイベントを開催予定でしたが、コロナ禍における緊急事態宣言の影響を鑑み、来年度に延期いたしました。

7 消費者・社会の要望を踏まえた商品・サービスの改善開発

日本農業遺産に登録された江戸時代から続く落葉堆肥農法に取組み、安心安全な有機栽培の「三富野菜」ブランドをお届けしています。

地域との関わりや地域特有の歴史・文化へのふれあい、自然の中で交流する場として、家族 3 世代など幅広い世代に憩い・集いの場を提供しています。

国際規格 ISO29990 を 29993 に移行し、持続可能な社会を築く人材づくりのため、体験型環境教育プログラムの質を高めています。

以上